

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年9月30日 NO.43 (143)

オー君 「あれ？モンタ博士！そのお花どうしたのですか。」

モンタ博士 「あのね、この前の日曜日、モンタ博士のおうちの近くの山をてくてくしてきたんだ。その時に咲いていた花だよ。」

花ちゃん 「きれいなお花ですね。ところで、モンタ博士のおうちはどこなんですか。」

モンタ博士 「モンタ博士のおうちはね、八王子駅からバスで30分くらいかかるんだ。」

オー君 「30分というと、けっこう遠いですね。」

モンタ博士 「そうだね。おうちの近くには、川があったり、雑木林もあるし、魚や生き物、いろいろな植物がいっぱいなんだよ。」

オー君 「へえー、何だかわくわくドキドキしそうなところですね。ぼくも行ってみたいなあ。ところで、モンタ博士、そのお花なんという名前の植物ですか。」

モンタ博士 「よく聞いてくれました。このお花は『ツリフネソウ』といいます。」

オー君 「え？船をつるの？」

モンタ博士 「花の形を船に見立てて、長い柄の先につりさがっているみたいだから、釣り船草（ツリフネソウ）というんだよ。」

花ちゃん 「とても上手に名前をつけたんですね。」

オー君 「ぴったりの名前だな。ところでさ、この花、どこかで見た花ににているような気がするんですが・・・。」

花ちゃん 「え？何というお花？」

オー君 「そうだ。ホウセンカだ。花がぶらさがっているだろう。それに、みずみずしい茎、やわらかそうな葉っぱ。やっぱりホウセンカの仲間だ。」

モンタ博士 「その通りだね。植物といってもいろいろあるけど、どこかにいる所があるんだ。そういう仲間を『科』というのさ。ところで、ホウセンカの仲間って、実が熟すと、パチンとはじけるんだけど、知ってるかな。」

オー君 「え！パチンとはじけるの。おもしろそうだ。やってみよう！花ちゃん。」

花ちゃん 「楽しそうね。パチンとやりましょう。」



ツリフネソウのつぶやき

花屋さんに並ぶ外国の色とりどりの美しい花に見慣れると、日本の野草はどこか地味で淋しい感じもするらしいけど、私は別格よ。まず、花の形が面白いでしょ。それに、花の先がぐるりと巻き上がっているのもおしゃれでしょ。そのぐるりとした中には蜜がたくさんあるの。それで、ハナバチくんたちが私のところにしょっちゅう遊びにくるのね。

ところで、私やハウセンカは実が熟すと、パチンと割れるのよ。種子が自動散布するのね。私たちの属の名前を学名でインパチェンスというの。これは英語の *impatiens* と同じで気短かの意なの。触ったとたんに実がはじけるからかしらね。私の仲間に私と同じ姿で黄色い花を咲かせるキツリフネというお友達がいるの。その学名は *Impatiens nolitangere* (インパチェンス・ノリタンゲレ) というの。*nolitangere* は我に触るなの意味のラテン語よ。「さわっちゃいや。おこるわよ。」と言う意味なのね。